

チェコ語名詞と日本語名詞の指小辞の対照研究

齊藤 弘樹

(言語文化学部 チェコ語専攻)

キーワード：チェコ語, 日本語, 指小辞, 名詞, 対照研究

1. はじめに

本稿は日本語名詞とチェコ語名詞の指小辞を対照し、類似点や相違点を見つけることを目的とする。指小辞については以下、亀井・河野・千野（編）（1996: 638）をまとめる。

指小辞とは、名詞・形容詞・副詞に特定の接辞を付けて、それらの語のさす事物の寸法・度合いがごく小さいこと、または、その表す性質・程度が減じられること・微弱であることなどを意味するもののことである。口語や俗語で、愛らしさの強調や、愛着や親密さ、またはその逆に軽蔑や侮辱などの情緒的表現として用いる場合が多く、多数の言語にその例がある。

本稿では、「小ささ」といった意味を有する接辞を指小辞、指小辞を伴う名詞を指小語と表す。そして指小辞を伴わずに「小ささ」を表す名詞や形容詞を伴って「小ささ」を表す名詞を指小表現とする。なお、本文中の図表番号については特に断りのない限り筆者によるものとする。

2. 先行研究

本稿では、2.1.節で指小辞を通言語的にまとめている先行研究である Jurafsky (1996) を扱い、2.2.節ではチェコ語指小辞についての先行研究である Káňa (2012) を扱う。その後に2.3.節で日本語の指小辞に関する先行研究である皆島 (2003) を扱う。

2.1. Jurafsky (1996)

Jurafsky (1996) は 60 以上の言語の資料を基に、指小辞の特性をまとめた。Jurafsky (1996: 535) は指小辞には語用論的な意味を持つ特性が通言語的に存在すると主張しており、表 1 のように意味論的特性と語用論的特性に分けている。そして Jurafsky (1996: 535) は、意味論的特性が現れる場合は、語用論的特性も同時に現れることがあると述べている。

表 1: 通言語的な指小辞の意味論的特性と語用論的特性

意味論的特性	「小さい」「子供、子孫」「女性」「小型」「模倣」「強調、正確さ」「近似」「部分・個体」
語用論的特性	「愛情」「軽蔑」「遊び心」「ペット」「婉曲」

さらに Jurafsky (1996: 542) は図 1 のような放射状カテゴリーによって指小辞の普遍的な特性構造を提示した。なお Jurafsky (1996: 542) を基に、図 1 の日本語訳は筆者が行った。

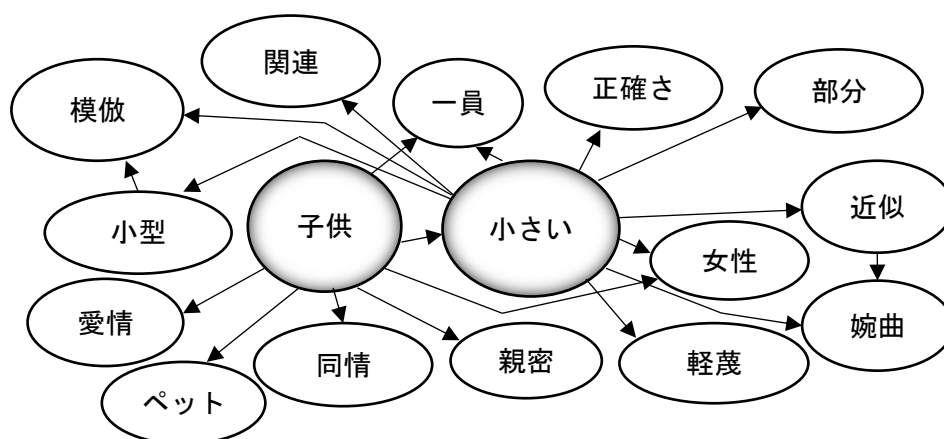


図 1: 指小辞の特性の普遍的構造 (Jurafsky (1996: 542) を基に筆者作成)

2. 2. Káňa (2012)

Káňa (2012) はチェコ語の指小辞についての研究であり、チェコ語指小辞を 3 つのカテゴリに分類した。その 3 つのカテゴリの中で *diminutives proper* (後述) のみがチェコ語の指小辞とみなせると述べている。

Káňa (2012) はチェコ語指小語の基本定義を、「派生されている語であり、小ささ、細かさ、深い愛情を表すもの」としている。表 2 はチェコ語の指小接尾辞を示したものである。ただし、この表の他に特殊な変化をする指小辞も存在する (例: *pejsek* 「犬. DIM」 < *pes* 「犬」)。

表 2: チェコ語の指小接尾辞

	第一段階 ¹	第二段階	第三段階
男性	-ec, -ek, -ík	-áček, -ánek, -eček, -ének, -íček, -ínek, -oušek	
女性	-(i)ce, -(e/i)ka, -ina	-e/ěнка, -ánka, -e/ínka, -unka, -(o)uška, -ečka, -ička	-čenka, -čička, -enečka/inečka, -ulenka/ulička
中性	-ce, (-ě), -ko, -átko	-e/ěčko, -i/íčko, -e/énko, -i/ínko, -uško, -ouško	

diminutives proper (pravá deminutiva)

deminutives proper に含まれる語彙は次のような事柄が当てはまる。

- ・一単語であるものに限る。
- ・いわゆる指小語であり、基本形からの修飾によって作られる語である。
- ・基本形は現代語において必ず存在しており、基本形も指小語も同じ品詞に属する。
- ・他の言語においても、同等に対応することが多い。

¹ Peprník (2001:101) によると、チェコ語の指小辞は 3 つの段階が存在する (例: *strom* 「木」 - *stromek* 「木 - DIM」 - *stroměček* 「木 - DIM-DIM」)。

2.3. 皆島 (2003)

皆島 (2003: 109-117) は、日本語では接辞「コ」が指小辞として扱われ、日本語の指小辞「コ」は3種類存在すると述べている。以下その表である。

表 3: 日本語指小辞「コ」

	接辞	基本的な特徴・例	
「子-」	接頭辞	人間	「従属」を表す (例: 子分 ² 、子ギャル)。
		動物、植物	「若い」「幼い」「派生」を表す (例: 子猫、子株)。
		無生物	「従属」を表す (例: 子機 ² 、子羽)。
「-子」	接尾辞	人間、場所、時代	「典型的な行動様式」を表す (例: ちびっ子、江戸っ子)。
		動作	「従事者」「道具」を表す (例: 売り子、振り子)。
		親族、身内	「親愛の情」を表す (例: 甥っ子、姪っ子)。
「小-」	接頭辞	生物、人間	「若い」、「小さい」、「取るに足らない」を表す (例: 小人、小鳩、小者)。
		無生物、自然現象	「小さい」を表す (例: 小石、小雨)。
		数詞	「近似値」を表す (例: 小一時間、小一里)。
		身体部分	「一部分」を表す (例: 小指、小鼻)。

2.4. 先行研究のまとめと研究の見通し

Jurafsky (1996) は通言語的な指小辞の特性を放射状カテゴリーを用いて図式化した。

Káňa (2012) はチェコ語指小辞とみなせるのは *diminutives proper* のみであると述べた。

皆島 (2003) で述べられた日本語指小辞「コ」の特性は、Jurafsky (1996) の放射状カテゴリーのうち「子供」、「小さい」、「一員」、「部分」、「女性」、「小型」、「愛情」、「軽蔑」、「近似」であると考えられる。

先行研究のまとめより以後の調査では以下のことに留意して研究を行う必要がある。

・チェコ語指小辞についての先行研究である Káňa (2012) では、指小辞が小ささ、細かさ、愛情といった大きな観点のみで定義されているため、Jurafsky (1996) が示した普遍的な指小辞の特性との共通点や相違点を見つける必要がある。

・日本語指小辞に関しては、皆島 (2003) が指小辞と主張する接辞「コ」を中心に調査を行うが、新たに日本語指小辞といえる可能性のあるものが出現した場合はその検証を行う。

これらを踏まえて、本稿ではチェコ語指小辞と日本語指小辞の対照を通じて類似点と相違点を明らかにして、各言語の指小辞の特性を Jurafsky (1996) のように分類する。

² 「子分」と「子機」から指小辞「子-」を除いた場合、それぞれ「分」と「機」になることより、「子分」と「子機」が指小語であるかどうかについては疑念が残る。

3. 仮調査

筆者がチェコ語訳のあるものの中から無作為に選んだ、村上春樹（2000）の『神の子どもたちはみな踊る』という小説の中の一編である「UFO が釧路に降りる」（チェコ語版: UFO v Kuširu）を用いて調査を行う。そしてチェコ語版である Tomáš Jurkovič（訳）（2010）の“Po otřesech”を用いて対照する。なお本稿では紙幅の都合上、仮調査の結果は割愛する。

3.1. 仮調査の問題点

仮調査では指小語がほとんど出現しなかった。このような結果となったのは、仮調査では指小辞が乏しいと予想できる日本語原作の小説を用いたためであると考えられる。指小辞は Jurafsky（1996）の図 1 の通り、「子供」「小ささ」が特性の中心に表れる。したがって、チェコ語原作の児童書を用いた方が指小語が多く出現すると筆者は考え、本調査を行った。

4. 本調査

本調査では仮調査の結果から、チェコ語原作の児童書を用いた方が指小辞が頻出するとの考えを得た。したがって、初めに本調査Ⅰでチェコ語原作の児童書を用いた対照調査を行う。一定量の指小語のデータが出現したため、本調査Ⅱで更なるデータを収集するために他のチェコ語原作の児童書を用いて対照調査を続ける。

4.1. 本調査Ⅰ

本調査ではチェコ語原作の児童書 Karel Čapek（1939）“Měl jsem psa a kočku”の一編“Dášeňka čili Život štěněte”と、その日本語訳である伴田良輔（訳）（1997）『小犬の生活 ダーシェンカⅡ』を用いて対照調査を行う。

4.1.1. 本調査Ⅰの結果

本調査ではチェコ語指小語を 41 例、日本語指小語を 22 例見つけることが出来た。両言語共に指小辞が出現したのは、チェコ語指小語 štěňátko「幼い飼い犬-DIM」、pejsek「犬-DIM」と日本語の「小犬」、そしてチェコ語指小語 krupička「小麦-DIM」と日本語指小語「小麦」のみだった。その他に本調査Ⅰではチェコ語指小語が出現した場合、対応する日本語訳では形容詞を用いた指小表現が頻出した。なお本稿では紙幅の都合上、結果の詳細は割愛する。

4.1.2. 本調査Ⅰの分析

本調査Ⅰの結果、チェコ語と日本語の指小辞の特性を以下の表 4 の通り分類した。

表 4: 本調査Ⅰによるチェコ語と日本語の指小辞の特性分類

チェコ語指小辞の持つ特性	「小さい」「細かい」「模倣」「ペット」「婉曲」
日本語指小辞の持つ特性	「小さい」「子供」

これに加えて、先行研究では日本語の指小辞は「コ」のみであると考えられたが、本調査 I の結果から、日本語接頭辞「オ-」が指小辞としての特性を持つ可能性があることを見つけた。(例:「おなか」、「おへそ」)。

4.2. 本調査 II

本調査 I ではチェコ語原作の児童書を用いて対照調査を行ったことで、一定数の指小語データを集めることが出来た。これより本調査 II においてもチェコ語原作の児童書を用いてデータの収集を行う。

本調査 II ではチェコ語原作の児童書 Jaroslava, Reitmannová (ed.) (1957) “*Pohádky Karla čapka*” から、5 つの短編である “Pohádka psí”, “Pohádka ptačí”, “Pohádka vodnická”, “Pohádka loupežnická”, “O šťastném chalupníkovi” と、その日本語訳である田才益夫 (訳) (2005) 『カレル・チャペック 童話全集』から、対応する 5 編「お犬さんの童話」「小鳥ちゃんの童話」「水男の童話」「礼儀正しい盗賊の話」「しあわせなお百姓さんの話」を用いて調査を行う。

4.2.1. 本調査 II の結果

本調査 II ではチェコ語の指小語を 126 例、日本語の指小語を 159 例見つけることが出来た。結果は以下の表 5、表 6 の通りである。なお本稿では紙幅の都合上、両言語で指小語が用いられたもののみを記し、各言語のみで指小語が現れたものは後述の表 7, 8 に示す。表では得られた形式を出現回数順に並べており、指小辞を伴う名詞は原形で表している。本調査 I で指小辞の可能性があると仮説を立てた日本語接頭辞「オ-」と対応したものについては下線を施した。

表 5: “*Pohádky Karla čapka*”におけるチェコ語の指小語と日本語の対訳

出現回数	チェコ語指小語	対応する日本語指小語	出現回数	チェコ語指小語	対応する日本語指小語
30	<u>dědeček</u>	<u>おじい (祖父) さん</u> 、 <u>じいさん</u>	2	princátko	王子、小王子
7	<u>bříško</u>	<u>お腹</u> 、 <u>胴体</u>	<u>1</u>	hrabátko	小公子
7	<u>babička</u>	<u>お婆 (祖母) さん</u>	1	mlejnek	(水車) 小屋
4	<u>pradědeček</u>	<u>ひいお祖父さん</u> 、 <u>ひい (曾) 祖父さん</u>	1	malovodníček	小かつば
3	ptáček	小鳥、鳥、一羽の鳥	1	zlodějíček	小泥棒
3	<u>panáček</u>	紳士、青年、 <u>お若いの</u>	1	<u>kolegáček</u>	<u>お仲間</u>
2	<u>tatínek</u>	<u>お父さん</u>	1	kůlnička	(物置き) 小屋
2	<u>maminka</u>	<u>お母さん</u>	1	okýnko	小窓

表 6: 『カレル・チャペック 童話全集』における日本語の指小語とチェコ語の対訳

出現回数	日本語指小語	対応するチェコ語指小語	出現回数	日本語指小語	対応するチェコ語指小語
47	<u>おじい (爺)</u> <u>(祖父) さん</u>	<u>dědeček</u> , mu ³ , Tonda, Karel, děd,	1	小かつば	malovodníček
16	<u>おばあ (婆)</u> <u>(祖母) さん</u>	<u>babička</u> , kmotra, Helena, stará,	1	小泥棒	zlodějček
11	小屋	mlýn, mlejnek, co, stáj, byt, kůlnička	1	小王子	princátko
8	小鳥	ptáček, pták, oni ³	1	小公子	hrabátko
6	<u>お腹、おなか</u>	<u>bříško</u>	1	<u>お仲間</u>	<u>kolegáček</u>
3	<u>お母さん</u>	<u>maminka</u> , <u>máma</u>	1	<u>お若いの</u>	<u>panáček</u>
2	<u>ひいお祖父さん</u>	<u>pradědeček</u>	1	小窓	okýnko

本調査Ⅱではチェコ語指小語に対して、日本語指小辞「コ」を伴って対応する語と日本語接頭辞「オ-」を伴って対応する語が共に 8 例ずつ出現した。反対に日本語指小辞「コ」を伴う指小語がチェコ語指小語と対応した例は 7 例であった。日本語接頭辞「オ-」を伴う名詞のほとんどはチェコ語指小語に対応しなかった。対応したものは「おじいさん、お爺さん、お祖父さん」といった家族に関する語と「お腹、おなか」、「お仲間」、「お若いの」であった。「お腹」の他に「腹」という語も出現したが、このチェコ語対訳は指小語ではない břícho が用いられた（「お腹」のチェコ語対訳は全て指小語 bříško であった）。「お仲間」と「お若いの」は語り手が、語り手よりも力がない受け手を対象として発話した場合に用いられた。

4.2.2. 本調査Ⅱの分析

本調査Ⅱにおいて得られたデータを基に以下の通り分析を行った。次の表 7, 8 に示すのは本調査Ⅱから得られたチェコ語指小辞と日本語指小辞の特性の分析結果である。

表 7: チェコ語指小辞に関する特性分類

特性カテゴリー	指小語の例	特性カテゴリー	指小語の例
「一員」	dědeček 「爺さん-DIM」	「好い」	vůnička 「匂い-DIM」
「ペット」	pejsek 「犬-DIM」	「神聖」	panenka 「聖母-DIM」
「愛情」	synáček 「息子-DIM」	「模倣」	loužička 「水たまり-DIM」
「軽蔑」	koníček 「馬-DIM」	「女性」	šáteček 「ハンカチ-DIM」
「敬意表現」		「同情」	kupeček 「商人-DIM」

³ mu は人称代名詞男性形単数与格、oni は人称代名詞男性形複数主格である。

「小型」	lodička 「舟-DIM」	「弱い」	malovodníček 「小かつぱ-DIM」
「小さい」	ptáček 「鳥-DIM」	「婉曲」	bříško 「腹-DIM」
「強調」	klubičko 「玉-DIM」		

今回の分類の中で、「弱い」と「神聖」の特性カテゴリーは本稿で挙げている先行研究では述べられていない特性カテゴリーであり、筆者が命名したものである。中尾(2004: 98-99)⁴は「女性」「ペット」「病人」の特性について、いずれも女性と男性、ペットと主人、病人と医者のように「小さいもの」と「大きいもの」すなわち子供と大人の関係と類似しており、「子供」に存在する特性を持つ対象は指小辞を伴いやすいと述べている。これより「弱い」の特性も「強い (=大人)」と「弱い (=子供)」のように「子供」が持つ特性を有していると言え、指小辞を用いることが可能であると筆者は考える。

「神聖」の特性は中尾(2004: 96)がロシア語指小辞の特性の中核としている「親愛の情」から派生したと考えることが可能である。筆者は「親愛の情」のより具体的な対象として「神聖」があると考え、本稿では特性カテゴリーの一つとして取り入れた。

表 8: 日本語指小辞「コ」に関する特性分類

特性カテゴリー	指小語の例	特性カテゴリー	指小語の例
「子供」	子犬	「弱い」	小がつぱ
「小さい」	小鳥	「幼い」	いたずらっ子
「小型」	小窓	「細かい」	小銭

そして本調査Ⅰで日本語接頭辞「オ-」が指小辞として機能する可能性を得たが、本調査Ⅱではチェコ語指小語 kolegáček 「仲間-DIM」と panáček 「青年-DIM」がそれぞれ日本語接頭辞「オ-」を伴う「お仲間」「お若いの」と対応した。そしてチェコ語指小語 dědeček 「爺さん-DIM」は「おじいさん」に対応し、チェコ語指小語 bříško 「腹-DIM」は「お腹」と対応したことから、筆者は日本語接頭辞「オ-」は部分的に指小辞的特徴を持つ可能性を提示する。なお日本語指小辞「オ-」は「お父上」に見て取れる「敬意」や「丁寧」といった特性は持ちえないと考えられる。日本語指小辞「オ-」が持つと考えられる特性カテゴリーは以下の表 9 の通りである。

表 9: 日本語指小辞「オ-」に関する特性分類

特性カテゴリー	指小語の例	特性カテゴリー	指小語の例
「一員」	おじいさん	「軽蔑」	お仲間、お若いの
「婉曲」	お腹		

⁴ 中尾(2004)は Jurafsky (1996: 542) の放射状特性カテゴリーを基に、ロシア語指小辞の特性について述べている研究である。

5. まとめ

以下の図2と図3は筆者が本稿で行った調査の結果を基に提示するチェコ語指小辞と日本語指小辞の放射状特性カテゴリーである。図中の矢印は、矢印の通りに指小辞の特性が枝分かれ的に派生していったことを示している。今後の課題は以下のチェコ語指小辞と日本語指小辞の放射状特性カテゴリーに更なる特性カテゴリーを加えることである。

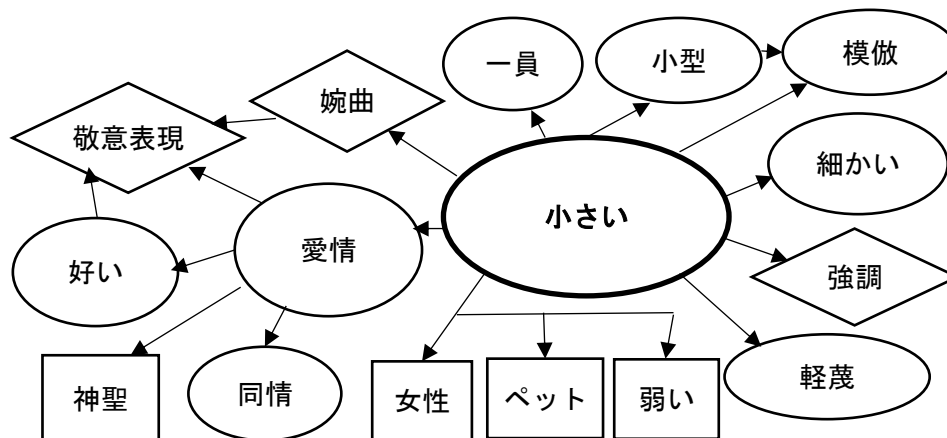


図2: チェコ語指小辞の放射状特性カテゴリー

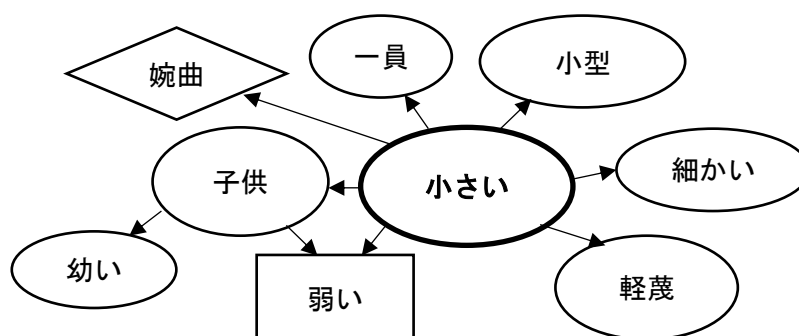


図3: 日本語指小辞の放射状特性カテゴリー

参考文献・調査資料

- 〈参考文献〉 Jurafsky, Dan (1996) “Universal Tendencies in the Semantics of the Diminutive” *Language* 72-3: 533-578./ 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編) (1996) 『言語学大辞典 第六巻 術語編』東京:三省堂./ Káňa, Tomáš (2012) “Česká substantivní deminutiva ve světle korpusových dat” *Gramatika & Korpus* 2012 4: 1-14, Hladec Králové, Gaudeamus./ 皆島博 (2003) 「日本語の指小辞「コ」について: エウエ語との対照」『一般言語学論叢』6: 107-132, 茨城: 筑波一般言語学研究会./ 中尾裕子 (2004) 「指小接尾辞 -#k(-)の意味構造」『ロシア語ロシア文学研究』36: 93-101, 日本ロシア語文学会./ Peprník, Jaroslav (2001) *English Lexicology*, Olomouc: Univerzita Palackého v Olomouci, Filozofická fakulta. 〈調査資料〉 Čapek, Karel (1939) *Měl jsem psa a kočku* Praha: Fr. Borový./ 伴田良輔 (訳) (1997) 『小犬の生活 ダーシェンカII』東京: 新潮社./ Jurkovič, Tomáš (訳) (2010) *Po otřesech* Praha: Euromedia Group, k. s./ 村上春樹 (2002) 『神の子どもたちはみな踊る』東京: 新潮社./ Reitmannová, Jalsoslava (ed.) (1957) *Pohádky Karla čapka* Praha: Státní nakladatelství dětské knihy./ 田才益夫 (訳) (2005) 『カレル・チャペック 童話全集』東京: 青土社.